

2024休眠預金通信

山梨号
VOL.3



コレクティブインパクトで実現する持続可能なまちづくり
～甲信地域の限界集落、過疎地、消滅自治体と呼ばれる小さな地域から～

編集：山梨県社会福祉協議会
福祉振興課
コミュニティ再生推進担当

桜の季節が過ぎ去り、2025年度も終了しました。

2024通常枠・休眠預金事業「コレクティブインパクトで実現する持続可能なまちづくり」事業も年度切り替えて各団体忙しいですが、昨年度行った事業の研修なども振り返りながら、PO※の4月の訪問活動等の内容を中心に、各団体の活動について紹介します。

※POとは、プロジェクトオフィサーの略。助成事業の進捗管理や伴走支援を行う役割。

2025年度あゆみ

8月 実行団体の決定！

内定団体向けオリエンテーション

10月 資金提供契約

山梨実行団体顔合わせミーティング

事業計画・資金計画見直し

9月



コレクティブインパクト研修
事前評価研修

11月



12月

資金提供契約
ロジックモデル作成

ロジックモデル提出
事前評価準備

1月

2月

休眠預金通信発行
企業連携に向けたオンラインミーティング



事前評価レビュー会
事前評価による事業計画・資金計画の見直し

3月

山作LLC合同会社（富士川町）

木育と地域通貨で、支え合う地域の仕組みを育む



里山部分では、薪作りやホダ木生産を実施して、森林資源の活用を進めることにより、地元の人が里山から生まれる林産物に触れる機会が増えています。また、ウッドデッキが完成したことを山主に報告したことで、地元の人が訪れる機会が生まれ、価値を再認識するきっかけになっています。その他講習会や関係者と打ち合わせを行うことで、今後も循環を見据えた活動につなげていきます。

まち部分の「ピンチャンラボ」では、地域アセスメントの結果をもとに交流会を実施し、これまでの調査内容や分析結果、今後の事業の方向性について参加者と共有しました。また地域通貨検討においては、過去事例研修などを通して、プロジェクト全体の戦略および位置付けの再定義、地域循環モデルの再構築を行いました。



特定非営利活動法人多摩源流 こすげ（小菅村）

「一宿一助」で地域と人がつながる、新しい滞在のかたち

「一宿一助の宿・結」を整備している場所は、以前宿泊施設だった旧古家旅館です。近くに役場や郵便局などがあり人の往来もある場所で、改修がすすんでいく中、通りすがりで声をかけていただくこともあるということです。現在、トイレや畳の張り替え等本格的な改修をおこなっており、本格稼働が待ち遠しいです。



「一助」として、小菅村で代々継承されてきた農業への参加も検討されています。小菅在来の貴重な品種であるジャガイモの栽培について、参加者と伝統的な料理を共有することで未来につなげていきます。

特定非営利活動法人みんなの街 (北杜市)

“生きづらさと担い手不足、双方を支える
ウェルネス拠点づくり



顔合わせ会

11月から始まった「自分と向き合うための拠点整備」としての小屋づくりも2棟がほぼ完成しました。参加した方は、小屋を建てるという普段ありえない企画も、物事やってみれば、割とできるものだなという経験ができたのが大きかったようです。今後は、この小屋を使った活動をどう展開していくのが楽しみです。

また3月末には、地域のことをよく知る方との打ち合わせ会を開催し、この事業でどのような協力をしていけるのかを話し合いました。地域の歴史や課題感など色々な意見やお話を聞きながら、検討を進めていきたいと思います。



みんなの街事務所

GIBIER FACTORY 合同会社 (道志村)

ジビエを通じて、山から街へ広がる
流域循環モデル



猟師体験

います。

また、道の駅どうしにて「猟師体験」を開催しました。実際の猟場の山を歩き、模擬銃体験、解体車で鹿の解体（皮剥き）をし、BBQ焼きでは部位の食べ比べを行いました。SNSでの告知とネット検索、道の駅キッチンカーのQRコードからの募集で9名が参加したとのことで、多くの方がジビエに興味を持っていることを感じました。食を通しての循環がどのように波及していくのか今後は楽しみです。

日本初となるジビエ解体車を導入したことで、新聞などの取材を受けるなど、メディアに出ることで、問い合わせも多くなりました。活動が取り上げられたことで、道志村の住民にも興味をもつていただいています。今後道志村にてジビエ活用に関する協議会を立ち上げ予定であり、現在その準備に取り組んで

